

日本海区水産研究所が取り組む さけます類に関する業務

ひらま よしのぶ
平間 美信 (日本海区水産研究所 業務推進部(調査普及課))

はじめに

平成 18 年 4 月に行われた水産総合研究センターとさけ・ます資源管理センターとの統合に伴い、日本海区水産研究所業務推進部にさけます類に関する業務を担う部署として調査普及課が設置されました。当研究所が担当する地域は、本州北部の日本海に面する秋田県・山形県・新潟県・富山県・石川県の 5 県であり、新潟県三面川や山形県月光川の「種川制」にみられるように、サケ資源の保護培養には歴史のある土地として知られています。近年では、39 河川、59 ふ化場においてさけますふ化放流事業が行われ、サケは毎年 1 億 4-5 千万尾の稚魚が放流され、50-100 万尾の親魚が回帰しています。また、北海道での日本海沿岸と同様、本州の中ではサクラマスのふ化放流事業に力を入れている地域でもあります。

業務の概要

私たちが行っている業務の内容を一言で言うと、「さけますに関する調査と成果・技術の普及」です。主要な業務には、ふ化放流や来遊資源について、その評価のための調査やデータ収集を行う生物モニタリング調査、さけます資源の維持安定のための効率的・効果的な増殖技術の普及、さけますふ化放流技術者の養成や技術向上のための技術講習会の開催が挙げられますが、この他にも、増殖実施団体からの委託業務やプロジェクト研究への参画等、当地域のさけますに関する業務に幅広く取り組んでいます。

次に、これらの業務の中からプロジェクト研究と一般公開について簡単に紹介します。

プロジェクト研究(サクラマス)

本州日本海域のサクラマス資源の再生を目指した平成 18 年度のプロジェク研究を、山形県、富山県、さけますセンター等とともに実施しています。サクラマスは当地域をはじめとする北日本の沿岸漁業、内水面漁業、さらに遊漁において重要な魚種の一つですが、近年その資源量は減少し続けています。この研究では、その資源再生のため、これまで行われてきた人工ふ化放流の検証、サクラマスの遡上と産卵の実態の調査、資源再生に向けた問題点の洗い出し等が行われています。その中で私たちは、各河川のふ化放流に関するデータの収集と整理を行い、また、富山県神通川、山形県最上川において、サクラマス幼魚の河川内分布や越冬期における生態等を、山形県内水面水産試験場、富山県水産試験場と協同して調査して



図1. 日本海区水産研究所の庁舎。平成18年度にさけます類の担当部署として調査普及課を設置。



図2. 技術講習会の中で行われた採卵実習の様子。写真は山形県月光川の箕輪ふ化場を会場とした講習会。



図3. サクラマス生息環境の調査。プロジェクト研究の一環として、対象河川においてサクラマスの生息環境や生態の調査を実施。

います。

一般公開

日本海区水産研究所では、研究の内容や成果を広く一般の人たちにも理解してもらうために毎年研究所の一般公開を開催しています。今年度も9月30日に「のぞいてみよう魚たちの暮らし」をテーマに開催し、各部署で体験・展示コーナーを開設しました。

私たち調査普及課も、さけます類の担当として参加し、パネル展示では、一般には目にする機会の少ないサケの生態やふ化放流事業、調査内容などについて展示しました。プロジェクターを使用したサケの解説やサケクイズは、楽しみながらサケについて知ることができ、子供たちを中心に好評をいただきました。鮭の下ろし方やイクラの作り方などを課長自ら包丁を握って実演した「鮭の解体」は、食卓につながる身近さと、その一方で普段見ることの少ない丸1尾のサケの物珍しさに、大人から子供まで多くの人に見学してもらいました。

また、来場者との懇談の場「おさかなカフェ」では、お茶を飲みながらのざっくばらんな話の中で、生態から食べ方までサケのいろいろな疑問や質問をいただきました。改めてさけます類に対する関心の高さやその生態の不思議さを認識し、私たちにとっても良い経験となりました。

おわりに

当研究所でのさけますに関する業務は始まったばかりです。本州日本海におけるさけます資源の回復と造成、安定維持に向けて一つ一つ成果を積み上げるため、基礎的な調査や技術普及等の業務を推進して行きますので、関係各機関のご協力をお願いいたします。

調査普及課連絡先

電話 025-228-0529 Fax 025-224-0955

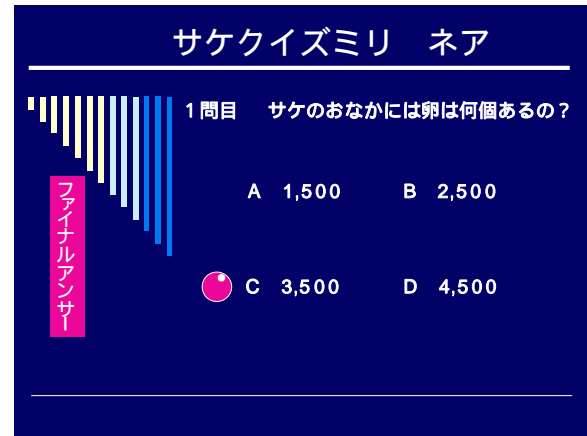


図4. 一般公開で開設したさけます類に関する体験・展示コーナー。上)サケクイズで出題された問題の一つ。中)鮭の解体の実演。サケの体の仕組みや料理方法を解説。下)おさかなカフェでの来場者との懇談。